

平成20年度 「第8回藤沢市30日美術館」開催について

1. 目的

「藤沢市30日美術館」は、ささやかであっても充実した美術展を開催することで、活気とうるおいのある「芸術文化のまち」をめざすことを目的にスタートした、期間限定の美術館です。

若手・故人にかかわらず、この湘南を拠点（あるいは出発点）として創作活動に携わる作家の作品を紹介し、鑑賞と交流の場を提供するものです。

開催にあたっては、専門家による実行委員会を構成し、藤沢市教育委員会との協議の上、企画の検討や作家の選出を行っています。

2. 会期

2009年2月24日（火）～3月29日（日）ただし、月曜日休館

3. 会場

藤沢市民ギャラリー常設展示室

4. 主催

藤沢市教育委員会・第8回藤沢市30日美術館実行委員会

5. 内容

～ 鉛筆画の異才 齋鹿 逸郎 抽象への憧れ ～

今年度は、誰もが小さな頃から親しんでいる鉛筆という素材を使い、独自の“白”と“黒”の世界を作り出した齋鹿逸郎（さいか いつろう）の遺作を展示します。

齋鹿氏は、1997年藤沢市大鋸に居を構え、亡くなる2007年までの10年間、藤沢で創作活動を続けられました。

鳥の子和紙にかわに膠で溶いた白亜と胡粉を塗り、鉛筆で隅々まで模様を描き、また白亜を塗るという作業を何度もくりかえし、白亜の“白”と鉛筆の“黒”が織りなす独特の空間を浮かび上がらせませす。気が遠くなるような鉛筆の軌跡で埋められた画面は、観る者を迷宮へと誘います。

6. 入場料 無 料

7. 事務局

藤沢市教育委員会生涯学習部 文化推進課

藤沢市30日美術館開催状況

	タイトル	開催日時	ジャンル	出品者	入場者数	実行委員会	内容
第1回 (H13)	ふじさわ・今日の作家展	2001.12.11～ 2002.1.20	絵画 彫刻 陶芸	大木啓義・大庭京子・川口シノブ・ 小玉政美・猿渡隆・加山哲也・ 廣田徹 賛助出品：片岡球子・絹谷幸二・ 山本正道	4,247人	石井 行・菊地彰子 小林信子・佐田 実 杉村明子・関根秀俊 平本公男・松本信子 森川貢太郎・矢田健爾	藤沢市美術家協会から 有志を募り、選出された5 名と、実行委員の推薦に よる2名による展示。
第2回 (H14)	荒木 襄太郎展 ～知られざる画家の詩想・そ の静謐なる宇宙～	2003.2.14～ 3.20	油彩画	荒木 襄太郎	5,006人	加賀優記子・唐木信允 平本公男・松本信子 水沢 勉	地元でもほとんど無名の 画家であったが、清潔さと 静謐さにあふれる独自の 画風が好評を博した。
第3回 (H15)	新しい日本画への挑戦 上田 臥牛展 ～鮮烈なる魂の軌跡～	2003.11.18～ 12.21	日本画	上田 臥牛	3,812人	石井 行・加賀優記子 平松敬子・平本公男 水沢 勉	中央の画壇からあえて身 を引き、日本画の新しい 可能性を追求した。「樹 木」の代表作が特に好 評。
第4回 (H16)	菅沼 五郎展 ～造型の意志・彫刻の詩～	2004.11.16～ 12.19	彫刻	菅沼 五郎	3,038人	石井 行・加賀優記子 猿渡 隆・平本公男 水沢 勉	朝倉文夫に師事し、自由 な心と直感で対象をとら えた。藤沢で多くの弟子 に愛された、反骨の彫刻 家。
第5回 (H17)	塚本 茂展 ～油彩の輝きを謳う～	2005.10.4～ 11.6	油彩画	塚本 茂	7,204人	平本公男・水沢 勉 宮原青子・佐藤和彦 新田雅秀	中村彝に師事し、時流を よそに写実の道を歩み続 けた。藤沢の現代美術の 礎を築いた油彩画家。
第6回 (H18)	藤沢市と丸木位里・丸木俊 展	2007.1.23～ 2.25	油彩画 水彩画	丸木位里・丸木俊	4,718人	佐藤和彦・新田雅秀 平本公男・水沢 勉 宮原青子	妻、俊さんの原爆病療養 のため、片瀬山に6年間 夫婦で生活。原爆の図を 描きはじめ16作中6作ま でを完成。
第7回 (H19)	～炎の中から～ クリスタルガラス 各務 鑛三展	2008.2.19～ 3.23	工芸	各務 鑛三	3,703人	佐藤和彦・新田雅秀 平本公男・土方明司 宮原青子	美術家協会会長を18年 間歴任し、第1回市展か ら精力的に作品出展をさ れ、地元の芸術家との交 流を重ねてこられた。

I T S U R O S A I K A

F U J I S A W A 3 0 d a y s M U S E U M VIII

鉛 筆 画 の 異 才

齋 鹿 逸 郎

抽象への憧れ

2009年 2月24日（火）— 3月29日（日）

会場：藤沢市民ギャラリー | 10:00～19:00（日曜日は17:00まで） | 月曜休館 | 入場無料

主催：藤沢市教育委員会・藤沢市30日美術館実行委員会 お問合せ：TEL 0466-23-2415（藤沢市民会館）

第8回 藤沢市30日美術館

〈無題〉(一部) 制作年不詳

I T S U R O S A I K A

田畑を耕すように、点と線の重なりがイメージの世界を拓ける

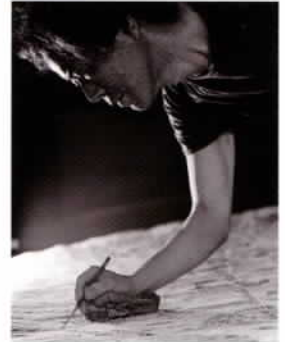
齋鹿逸郎さいかいつろうは、誰もが小さな頃から親しんでいる鉛筆という素材を使い、独自の“白”と“黒”の世界を作り出した画家です。

1928年鳥取県西伯郡賀野村(現南部町)の農家の長男として生まれ、1951年上京後、代々木絵画研究所に通い、絵の道に入りました。1997年藤沢市大鋸に居を構え、亡くなる2007年までの10年間を過ごしました。

鳥の子和紙にわかに膠で溶いた白亜と胡粉を塗り、鉛筆で隅々まで描き、また白亜を塗るといった作業を何度もくりかえし、白亜の“白”と鉛筆の“黒”が織りなす独特の空間を浮かび上がらせます。作家は“黒”から“白”へと関心を移しつつも、試行を重ねて生み出したその技法を生涯にわたり貫き通しました。

気が遠くなるような鉛筆の軌跡で埋められた画面は、観る者を迷宮へと誘います。描かれたカタチの一つひとつを辿れば、生きいきとした創造の悦びに触れることができるでしょう。余韻に満ち、不思議な魅力を放つ作品たちにこめられたメッセージをどう解釈するかは、私たちに委ねられています。

本展は、アトリエに残された膨大な作品群のなかから、その知られざる画業の一端を紹介するものです。時流におもねることなく、ひたすら修行者のように孤高の道を歩んだ画家の、深奥で荘嚴な作品世界をじっくりとお楽しみください。



撮影/松藤庄平



作品(4点):〈無題〉制作年不詳

ギャラリートーク
3月1日(日) 14:00~
講師:木下 晋(美術家)
●申込不要 当日会場にお越しください。

ワークショップ
3月7日(土) 14:00~16:00
会場:市民ギャラリーロビー
テーマ「鉛筆であそぶ」
●紙とえんぴつを使って各々が描いたピースを貼りあわせ、ひとつの壁面をつくります。参加無料(鉛筆持参可)



第8回 藤沢市30日美術館 鉛筆画の異才 齋鹿逸郎 抽象への憧れ

<http://www.city.fujisawa.kanagawa.jp/bunka/30days>

30日美術館
FUJISAWA 30 DAYS MUSEUM

藤沢市民ギャラリー | 藤沢市藤沢438-1 藤沢ルミネプラザ6F(小田急線「藤沢駅」/JR東海道線「藤沢駅」隣接)